

## 地域福祉センター及びデイホームの今後のあり方について

地域福祉センター及びデイホーム（以下「センター等」という。）は、60歳以上の市民の生きがいづくり、地域福祉の増進等に寄与するとともに、地域における福祉活動の拠点として、長期にわたり利用されてきました。しかし、センター等の設備の老朽化は進み、加えて、開設された当時と現在の宇治市を取り巻く社会情勢は大きく変化し、高齢者のニーズも多様化してきています。

そこで、今後のあり方を検討するため、「宇治市これからの高齢者の暮らしに関する調査」においてセンター等に係る市民ニーズを把握することとしました。

今般、センター等の利用状況及び当該調査の集計結果を踏まえ、地域福祉センター及びデイホームの今後のあり方をまとめましたので、ご報告いたします。

### 1 利用状況

#### (1) 指定管理施設

地域福祉センター 西小倉	区分	平成25年度	平成30年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	デイルーム（人/日）	34.8	33.5	4.2	5.9	9.0
	浴室（人/日）	34.8	33.5	0	0	0
	料理教室（件）	265	228	222	229	180
	地域交流室・研修室（件）	404	298	390	399	472
	ボランティアルーム（件）	266	252	316	412	481

地域福祉センター 東宇治	区分	平成25年度	平成30年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	デイルーム（人/日）	31.4	28.7	1.1	1.9	3.7
	浴室（人/日）	30.0	25.5	0	0	0
	料理教室（件）	87	109	124	138	131
	地域交流室・研修室（件）	494	461	474	465	556

地域福祉センター 広野	区分	平成25年度	平成30年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	ダイルーム（人/日）	13.8	16.4	7.2	9.4	10.1
	浴室（人/日）	8.8	6.3	0	0	0
	料理教室（件）	71	43	35	38	38
	介護者教育室・会議室（件）	149	519	472	472	426

地域福祉センター 横島	区分	平成25年度	平成30年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	ダイルーム（人/日）	11.1	6.6	5.0	5.1	9.6
	浴室（人/日）	9.3	6.2	5.0	5.2	10.0
	料理教室（件）	133	147	1	17	30
	地域交流室（件）	236	234	188	243	291

小倉 デイホーム	区分	平成25年度	平成30年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	ダイルーム（人/日）	18.9	21.8	12.2	11.6	11.9
	浴室（人/日）	6.4	6.2	0	0	0
	介護者教室（件）	81	92	218	197	209
	ボランティアルーム（件）	92	189	259	243	242

平盛 デイホーム	区分	平成25年度	平成30年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	ダイルーム（人/日）	18.0	18.2	4.8	8.4	11.1
	浴室（人/日）	19.4	13.0	0	0	0
	介護者教室（件）	108	80	124	147	171
	ボランティアルーム（件）	106	81	78	132	123

## (2) 直営施設

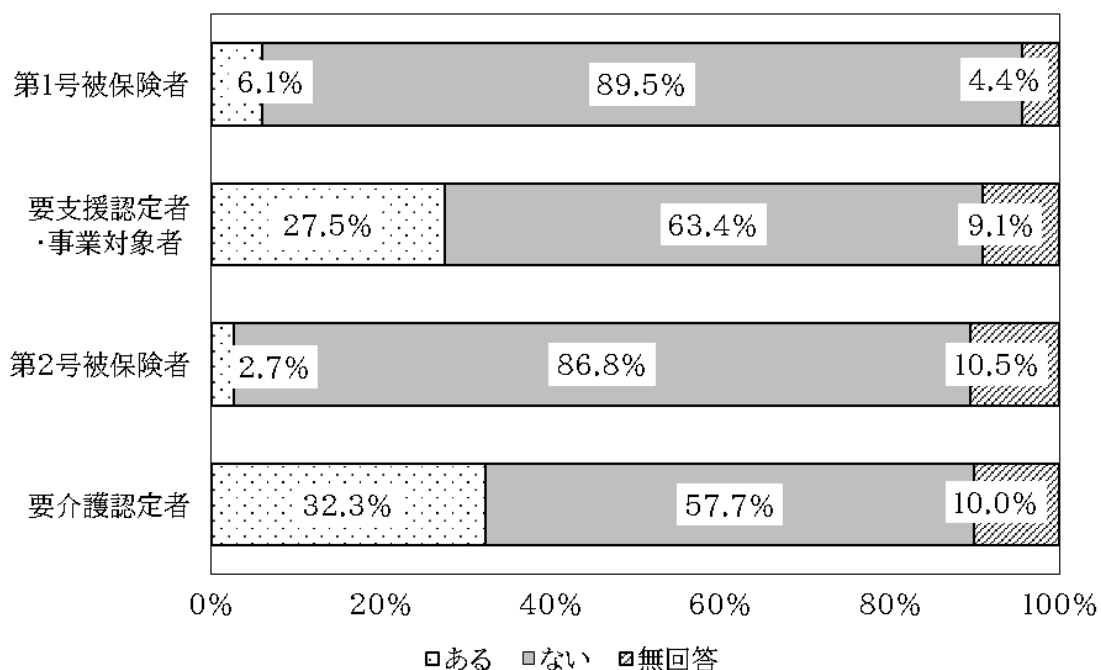
地域福祉センター 木幡	区分	平成25年度	平成30年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	娯楽室（人/日）	32.3	30.0	18.4	15.0	16.6
	浴室（人/日）	25.3	24.7	15.7	12.9	14.8
	集会室（件）	1,121	943	727	902	882
	創作室（件）	156	182	105	187	202
	調理室（件）	240	134	149	136	148

開 地 域 福 祉 セ ン タ ー	区分	平成25年度	平成30年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	娯楽室（人/日）	9.0	8.8	6.5	7.4	4.3
	浴室（人/日）	18.4	16.6	12.1	13.1	16.0
	集会室（件）	1,127	1,130	1,091	1,064	973
	創作室（件）	274	245	11	18	23
	調理室（件）	141	148	222	165	167

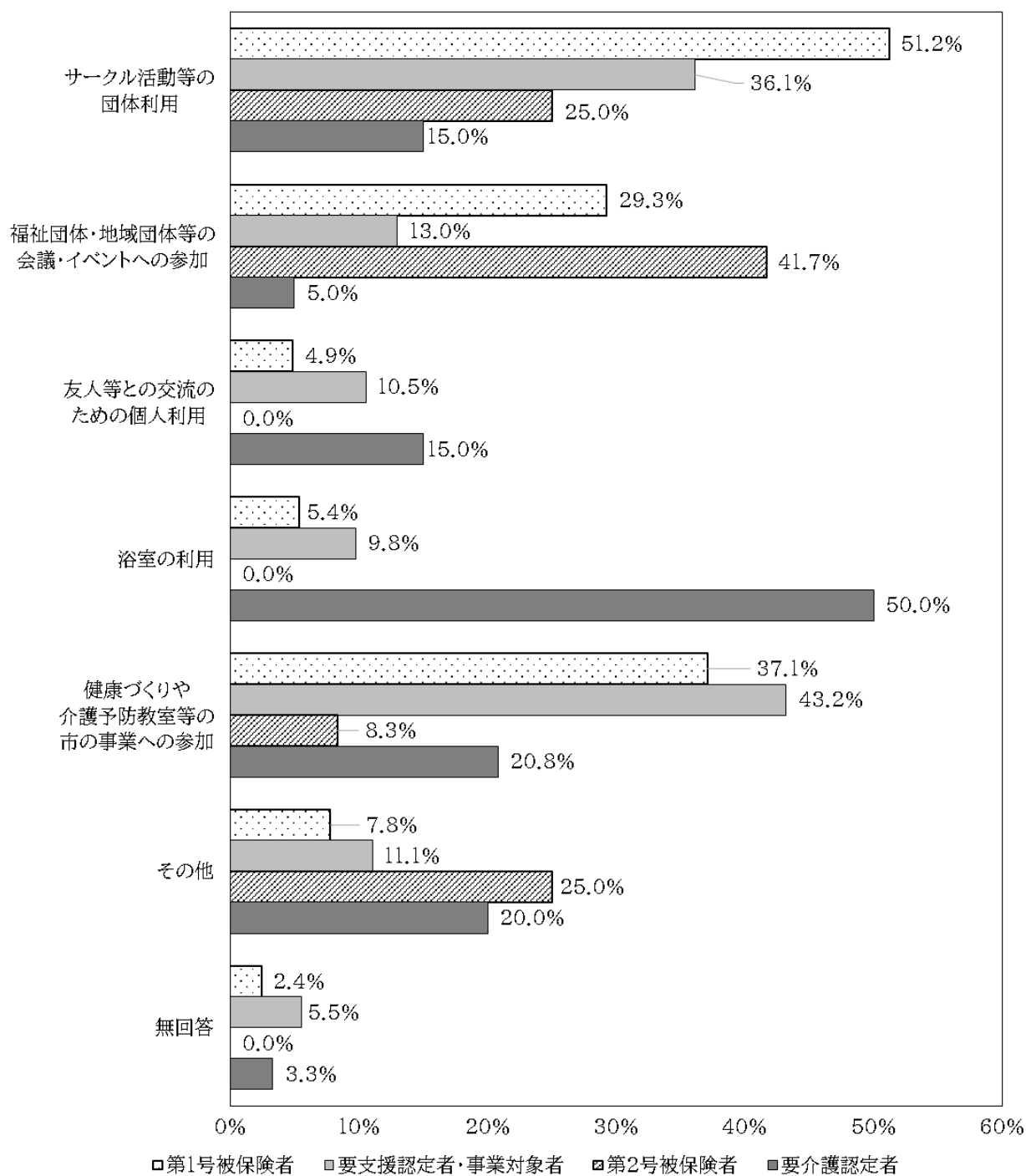
- ・個人が予約なしに利用できるデイルームや娯楽室、浴室については、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が残っており、平成25年度や平成30年度と比べると利用が少ない。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが変わった令和5年度以降の利用は、増えた施設もあるものの、コロナ禍前のような利用状況に戻っておらず、平成25年度や平成30年度と比べると横ばい若しくは減少傾向である。
- ・指定管理施設の地域交流室、介護者教室、ボランティアルームについては、登録団体が予約して利用できる部屋であり、その利用状況は横ばい若しくは増加傾向である。

## 2 「これからの高齢者の暮らしに関する調査」単純集計結果

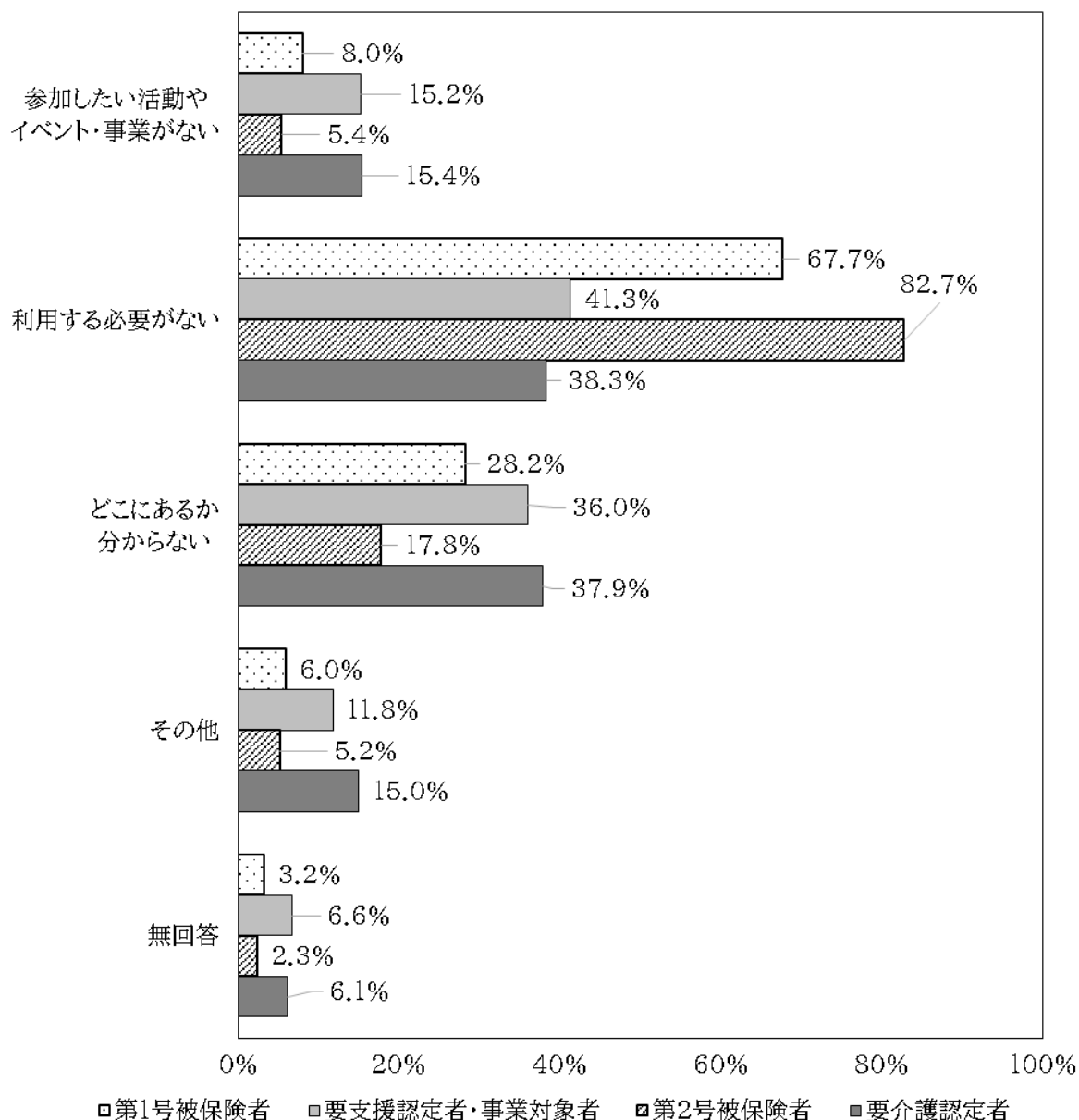
### (1) 地域福祉センター等を利用したことがあるか



(2) (あると回答した場合) どのような用途で利用したことがあるか



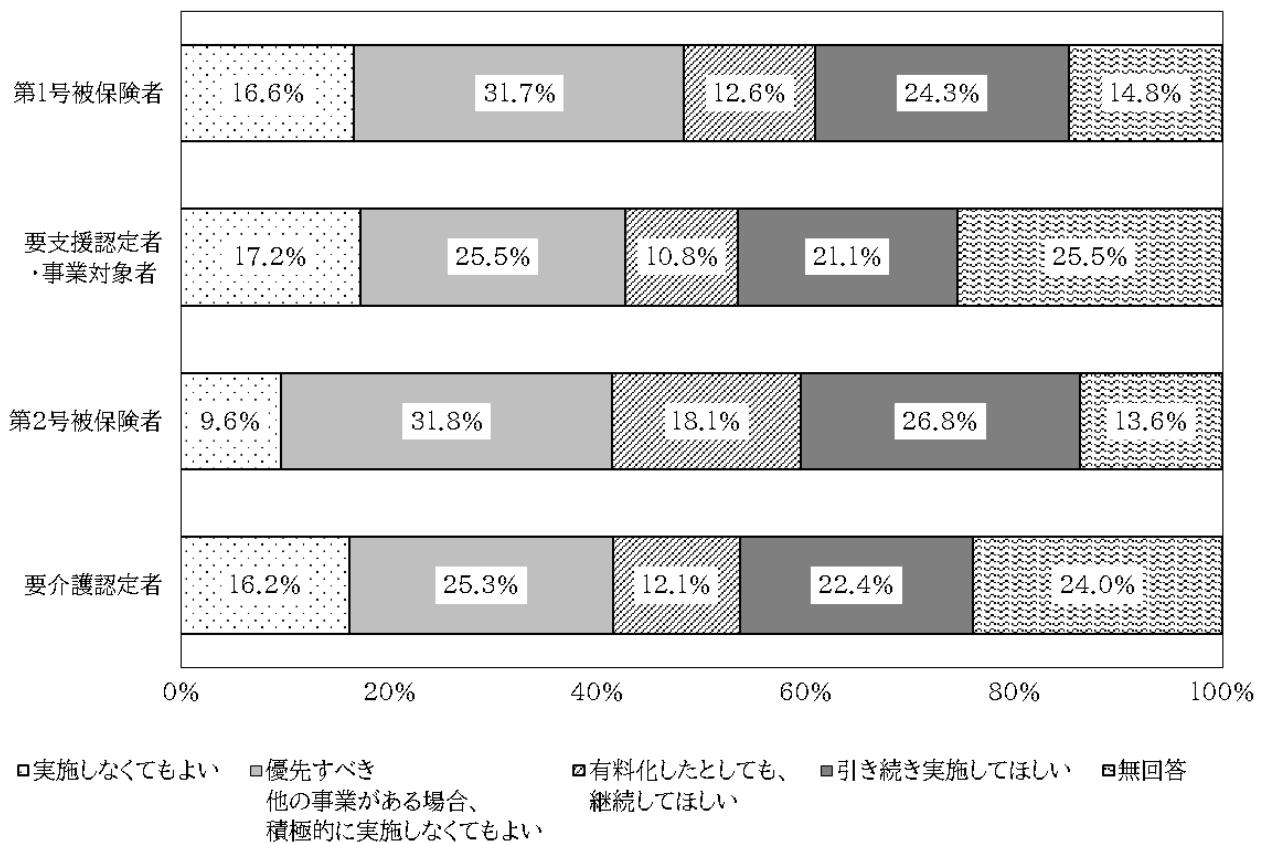
(3) (ないと回答した場合) 利用しない理由



<p>第1号被保険者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用用途は、「サークル活動等の団体利用」「健康づくりや介護予防教室等の市の事業への参加」が多い。</li> <li>・利用したことがない人は約90%で、「利用する必要がある」という人が最も多い。</li> </ul>
<p>要支援認定者・介護予防・生活支援サービス事業対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用用途は、「健康づくりや介護予防教室等の市の事業への参加」「サークル活動等の団体利用」が多い。</li> <li>・利用したことがない人は約65%で、「利用する必要がある」「どこにあるかわからない」という人が合わせて約80%である。</li> </ul>

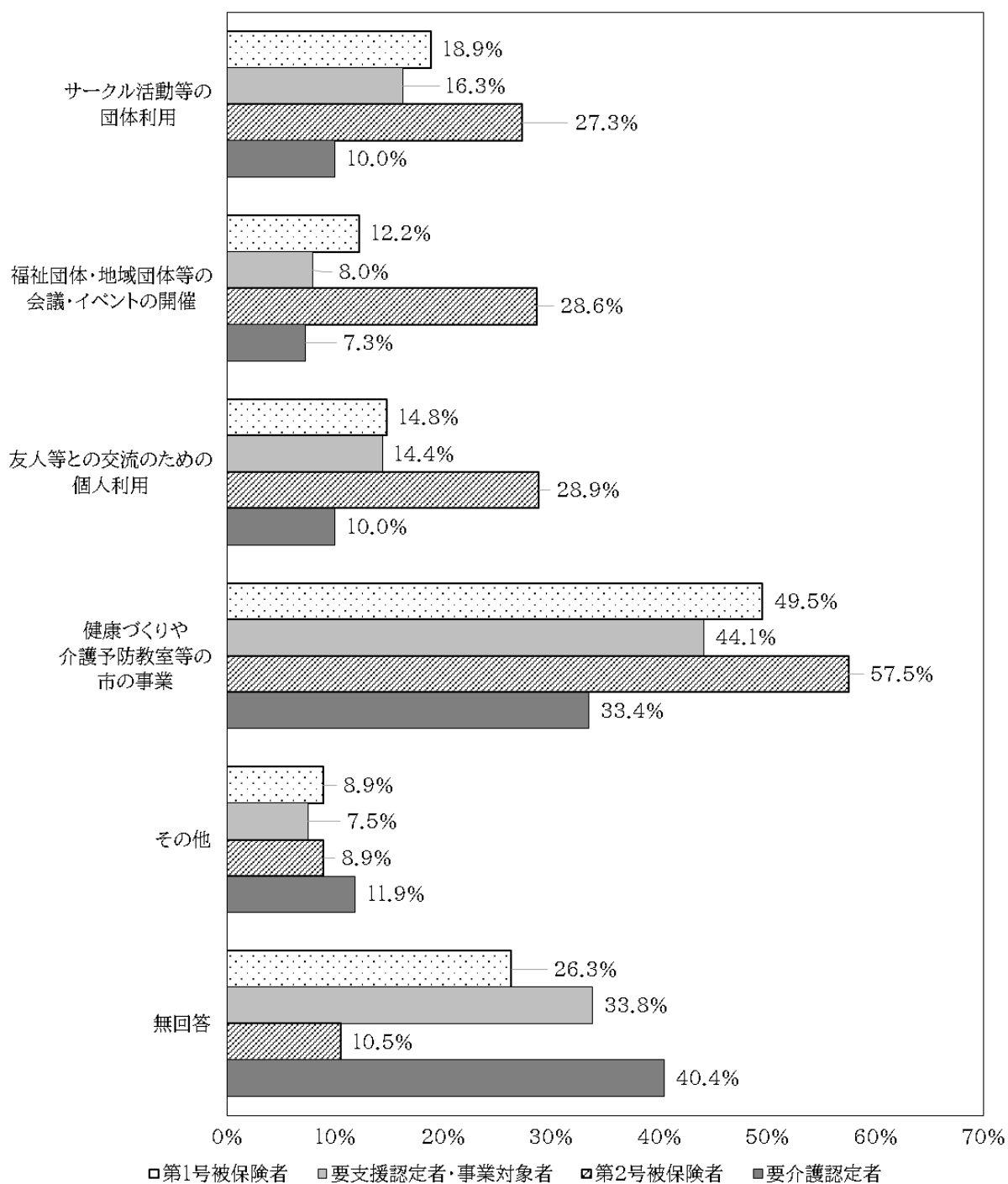
第2号被保険者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用用途は、「福祉団体・地域団体等の会議・イベントへの参加」「サークル活動等の団体利用」が多い。</li> <li>・利用したことがない人は約90%で、「利用する必要がない」という人が最も多い。</li> </ul>
要介護認定者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用用途は、「浴室の利用」が最も多いが、介護保険サービスで利用している可能性が高い。</li> <li>・利用したことがない人は約60%で、「利用する必要がない」「どこにあるかわからない」という人が合わせて約80%である。</li> </ul>

(4) 浴室の一般開放についての考え方



・どの種別においても、「実施しなくてもよい」「優先すべき他の事業がある場合、積極的に実施しなくてもよい」と答えた人は約45%であり、「有料化したとしても、継続してほしい」「引き続き実施してほしい」と答えた人は約40%である。

(5) 充実させた方がいい機能



- どの種別においても「健康づくりや介護予防教室等の市の事業」の充実を求める人が多い。
- 第2号被保険者は、他の種別と比べて「サークル活動等の団体利用」「福祉団体・地域団体等の会議・イベント」「友人等との交流のための個人利用」の充実を求める人が多い。

### 3 地域福祉センター及びデイホームの今後のあり方

#### (1) 介護保険サービスの質の向上

ニーズ調査において健康づくりや介護予防にかかる事業の充実を求める意見が多いこと、今後も通所介護における入浴サービスは一定のニーズが想定されることを踏まえ、要介護認定者に対する通所介護のさらなる質の向上を図ります。具体的には、センター等に併設している通所介護事業所において機能訓練や個別入浴への対応等、身体状況や介護状況に応じたサービス提供ができるよう、すべての浴室を通所介護事業の専用とし、施設改修に向けた検討を行います。

#### (2) 地域における健康づくり・介護予防活動の推進

ニーズ調査においては、健康づくりや介護予防教室等の事業の充実を求める意見が多く、健康づくりや介護予防への意識・関心が高まっています。

介護予防に資する住民主体の通いの場も年々増加しており、引き続きこうした場の立ち上げ・活動を支援していきます。また、そうした活動の場へ、作業療法士や理学療法士などの専門職を派遣するポピュレーションアプローチを充実させることで、地域における健康づくり・介護予防活動を推進します。

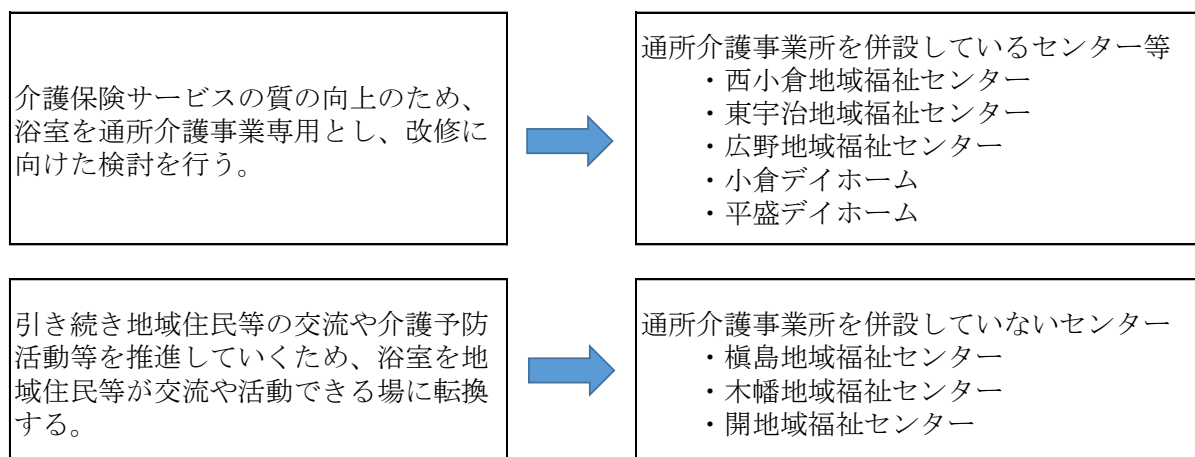
#### (3) 地域住民等が交流や活動ができる場を創出

センター等の憩いの場としての個人利用は減少傾向である一方、交流や活動の場としての団体利用は一部のセンター等では増加傾向です。また、ニーズ調査では、これから高齢期に入る第2号被保険者において「サークル活動等の団体利用」「福祉団体・地域団体等の会議・イベント」「友人等との交流のための個人利用」の充実を求める人が多くなっています。

これらを踏まえ、通所介護事業所を併設していない地域福祉センターにおいては、デイルーム・娯楽室の活用について検討するとともに、浴室の一般開放を廃止し、より多くの地域住民等が交流・活動できる場へと転換していきます。

#### (4) 利便性の向上

多くの人にセンター等を利用してもらうため、施設予約システムを導入し、利便性の向上を図ります。



#### 4 令和8年度の取組

介護保険サービスの質の向上に向けて事業者との協議を開始するとともに、センター等が地域における健康づくりや介護予防活動の場、住民同士が交流・活動できる場として、さらに利用しやすい施設となるよう、令和8年4月1日から浴室の一般開放を廃止し、各部屋の活用や改修等について検討を行います。また、施設予約システムの導入により、利用登録をした団体はオンラインでの利用予約が可能になります。